

かながわの

学びづくりプラン

「かながわ学びづくり推進地域事業」～5年間を振り返って～

平成20年度から開始した「かながわ学びづくり推進地域事業」も平成24年度で5年が経過し、今までの取組を振り返り、改めて本事業のねらい、成果・効果等を検証する時期を迎えたと捉えています。平成24年度のかながわ学力向上シンポジウムでは、そのような視点を踏まえながら、パネリストである学識経験者、県PTA代表、学校関係者から、次のような意見が出されました。

シンポジウムテーマ 「小・中学校における学力向上に向けた取組の成果と課題」



研究協議の持ち方

- ☆今までの取組を振り返る時期
 - ここまでの取組で効果的とされた手法が、「形だけ」のものになっていないだろうか。
 - ・なぜ、付箋紙を使うのか
 - ・なぜ、自評をやめたのか
 - ・なぜ、立って協議をするのか
- ☆「自分だったら〇〇のようにする」という構想をもつことで主体的な取組となるのではないか。

学力向上に向けた取組

- ☆学力向上のための視点
 - ・子ども同士の学び合いの姿の見とり
 - ・教師同士の共通理解と切磋琢磨
 - ・小・中学校の具体的な連携
 - ・家庭・地域との連携に向けた工夫
 - ・基本的な生活習慣の確立
- ☆個の学びから集団での学びへ、そして個の学びに返すことの大切さ
- ☆授業参観の視点の明確化
- ☆社会に適応し、発展させる力を子どもに付けていきたい

家庭から見た学びづくり

- ☆学校の取組について家庭への発信は十分か
 - 学校と保護者との話し合いの場を増やす
 - 地区学力向上シンポジウムへの保護者の参加を促す
 - 県PTAも情報発信に協力する
 - 学び応援プランを作成する
- ☆家庭や地域における教育環境の向上が必要

来場者との意見交換

- ☆家庭学習の習慣化が課題
- ☆良い学び方をお互いに学ぶことの大切さ

県内の各地域・各学校では創意工夫をこらしながら、

県公立小・中学校学習状況調査等の活用

◇県公立小・中学校学習状況調査の結果を分析して学習指導の工夫・改善に取り組んでいる市町村教育委員会や、課題解決教材を効果的に活用している学校から報告がありました。

県公立小・中学校学習状況調査の活用

市町村教育委員会 ⇨ 調査結果を分析し、各教科の傾向をまとめ、教科指導の改善策を提案する学校 ⇨ ①夏休み前の教育相談で個人結果票を配付し、夏休みの学習に役立てる
②9月以降の教科指導の工夫・改善のための資料として活用する

課題解決教材の活用

・まとめの学習 ・家庭での宿題 ・基礎的、基本的な力の定着 ・個別の支援
*学校のホームページに県ホームページから課題解決教材をリンクさせ、家庭で自主的に学習できるように配慮しています。

学びづくり推進地域における授業づくり

◇学びづくり推進地域の学校で研究発表会が開催され、テーマに沿った具体的な提案がありました。

授業づくりの視点

○知的好奇心を高める：・魅力的な教材の提示 ・日常生活との関連 ・体験活動の充実
○問題解決の力を育てる：・課題解決の見通しと振り返り ・確かな理解 ・家庭学習への発展
○学び合う活動の充実：・温かい学級づくり ・説明する活動の充実 ・相互の振り返り

学ぶ環境の整備

○学びの環境の充実
*学びを振り返り、考える手がかりを得る掲示物
○家庭や地域との連携
○温かい人間関係づくり
○協同学習、話し合い活動に視点を
○言語活動の充実

楽しく考え、進んで表現する児童の育成

○思考・表現を活性化させるペア・グループの有効活用
*わからない時に相談して広がる・深まる思考
○個が生きるノート・ワークシート指導
*思考が見えるノート作りで培う表現力
○発表から話し合いへ
*理解の深化、思考力と表現力の広がり・深まり

研究協議の工夫

◇研究協議の持ち方も工夫しています。

ワークシートを活用した研究協議

ステップⅠ（個人で考える時間）

*授業参観後、次の視点からキーワードとともに整理する。
○授業で評価できること
○授業から学んだこと・取り入れてみたいこと
○授業の課題や提案したいこと

ステップⅡ（グループワークの時間）

*原則3人で、交流することと提案するために協働して考える。
①1人が考えを述べる。他の2人は考えを聞き、意見をまとめる。（2回繰り返し）
②全体に提案したいことを3人でまとめる。

ステップⅣ（一人で考える時間）

*授業改善のために取り組むことをキーワードで示すとともに、具体的な方策をまとめる。

ステップⅢ（他のグループの提案・提言から学ぶ時間）

*教室の壁に貼られた各グループからの提案事項を見て、大切な事項や授業に生かせるものを2つ程度選択する。
*選択した理由について意見交換をする。

さまざまな取り組みを進めています

「家庭学習の手引き」の作成

◇学校での学習内容を確実に定着させ、学力をより一層伸ばすためには、学校と家庭との連携が大切です。小・中学生向けの家庭学習の手引きを作成し、各家庭に配付している市町村もあります。

【県央地区】

家庭学習…7つのポイント

- 1 早寝・早起き・朝ご飯**
心身の健康が第一です。規則正しい生活心がけましょう。
- 2 机まわりの整理整頓**
人が環境をつくり、環境が人をつくる・・・という言葉があります。気持ちよく学習できる環境にするために、整理整頓を心がけましょう。
- 3 計画的な家庭学習**
宿題や習い事等を考慮した1期間の生活の流れを確認して、曜日ごとの学習内容と開始時刻を決めます。まずは1日1時間から始め、家庭学習を継続させましょう。
- 4 宿題と復習・予習と学習準備**
宿題は、学習内容を再確認することによって、理解度を高めます。復習は、授業内容を反復することによって、学習内容を定着させます。予習は、意欲的な学習につながります。持ち物の用意も忘れずにしましょう。
- 5 学習の工夫、読書のススメ**
見るだけ、読むだけ、写すだけ・・・ではダメです。分からなかったら調べて理解し、覚えることはくり返して身につけ、問題を解いて確かめることが重要です。また、読書に親しむことで、知識を広げて読解力を高めましょう。
- 6 「ながら学習」は時間のムダ**
テレビを見ながら、音楽を聴きながら、メールをしながら、ゲームをやりながら・・・の「ながら学習」では効果は上がりません。集中して、家庭学習に取り組みましょう。
- 7 定期テストも万全対策**
定期テスト対策はとても重要です。テスト範囲をもとに、この期間の学習計画を立て、具体的な目標を持って学習に取り組みましょう。

小学校の学習内容の特色

低学年 ⇨ 基本的な学習習慣を！

1・2年生

家庭学習のめやす
15～30分

- ・「読み、書き、計算」等の基礎的・基本的な学習を行います。
- ・繰り返し練習することで、力のつく学習内容がたくさんあります。
- ・生活と結びついた学習が多く、具体物を使ったり、実際に体験したりします。
- ・「話をしっかり聞く」「正しく鉛筆を持つ」「身の回りの整理整頓をする」「明日の学習の準備をする」なども基本となる大切な学習です。

中学年 ⇨ 自主的な学習習慣を！

3・4年生

家庭学習のめやす
30～60分

- ・新しい漢字をたくさん学習し、国語辞典や漢字辞典を使います。(3・4年生ともに200字ずつ)
- ・「社会科」「理科」「総合的な学習の時間」の学習が始まります。地図帳や資料集・事典などを使って、「調べ学習」に取り組みます。
- ・四則計算(＋・×・-)の基礎・基本を徹底して学びます。分数や小数など、学習する数の範囲が広がります。
- ・ローマ字、毛筆、リコーダーの学習が始まります。

高学年 ⇨ 計画的な学習習慣を！

5・6年生

家庭学習のめやす
50～90分

- ・筋道を立てて考える力や広い視野で物事を見る力が必要になります。
- ・自分で課題を見つけ、解決していく学習が多くなり、「学び方」や「まとめ方」を学びます。
- ・「家庭科」の学習が始まり、衣食住の基礎・基本を学びます。
- ・「外国語活動」を通して、国際感覚の基礎を身につけていきます。

家庭学習によって、次のような教育的効果が期待できます。

- ①学習内容の定着 ②脳の活性化 ③学習の習慣化 ④根気・集中力 ⑤家族のふれあい

研究成果の発信

◇地区ごとにテーマを設定し、学力向上シンポジウムを開催しています。

【足柄下地区】 テーマ「学習意欲を高めるために、学校、家庭、地域ができること」

校長から

- 学力をつけるとともに、努力できる子どもを育てること
- 一番は楽しい授業・満足感・達成感の得られる授業をめざす
- 楽しく考える、進んで表現するなどの過程を大切にすること

保護者から

- 大人のモラルを高め、目標に向かってあきらめない姿を子どもに背中で見せたい

地域の方から

- ボランティアとの関わりの中で、子どもの成長を期待したい

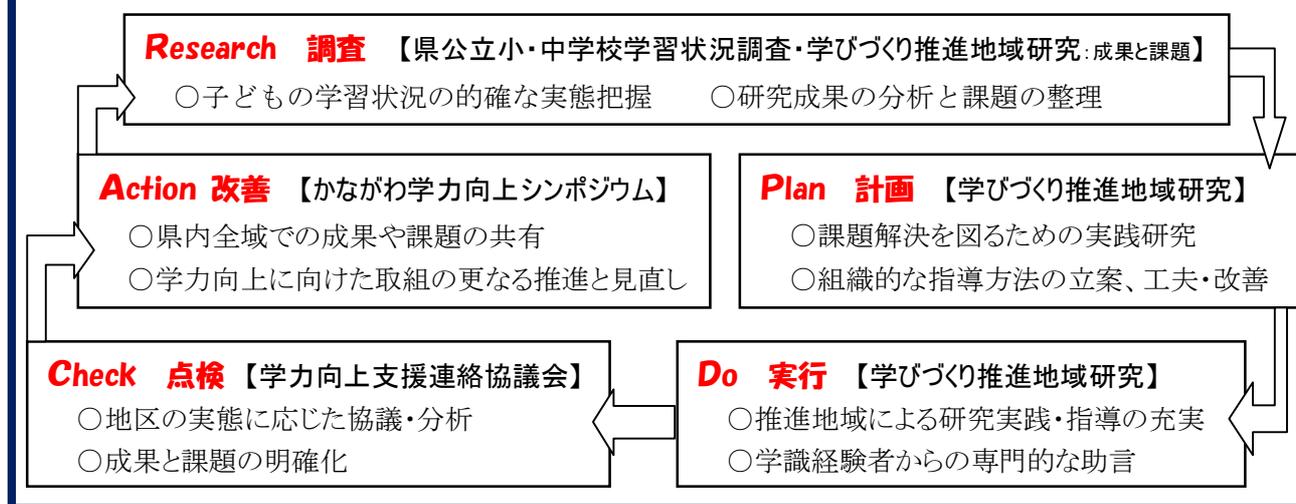


コーディネーターから

- 温かい人間関係と自己肯定感を育てること
- 考える教育を家庭でもお願ひしたい

県では「RPDCAサイクル」に基づく学力向上のための取組を実施しています

神奈川県では「公立小・中学校学習状況調査」などの結果分析をもとに、これまでの取組の成果と課題を明らかにした上で、学力向上に向けた取組を進めています。



学びづくりの成果と課題

◇学びづくり推進地域の学校に限らず、県全体として次のような成果がみられます。

◇授業研究の取組が進みました

- グループでの事前協議の実施
- 子どもの見とりを大切にした授業展開
- 子どもの考えを繋げる授業展開
- 授業のねらいに応じた学習形態の工夫
- ワークシートの工夫
- 目的をもった机間指導
- 丁寧な板書
- 授業における人間関係づくり

◇研究協議が工夫されました

- 当該学級の子どもの感想などを踏まえた研究協議
- 付箋紙を用いた研究協議
- ワークショップによる研究協議
- 研究協議のまとめの作成と配付

◇校種を超えた取組がありました

- 異校種間の指導に関する意見交換の実施
- 教育委員会の指導主事の積極的な関わり

◇次の点を踏まえて、授業改善等に努めましょう。

- 研究授業を通して、教員の指導力の向上に努めましょう。
- 年間計画の中に研究授業を明確に位置づけ、研究協議では視点を絞り、時間を有効に活用しましょう。
- 学習指導案には単元（題材）ごとに指導計画や評価計画を記載し、本時のねらいや評価、支援を明確にしましょう。
- 研究協議を進行するファシリテーターとしての力量をつけましょう。
- 異校種の授業を参観し、円滑な接続に向けた具体的な取組を行いましょ。
- 子ども自らが課題を見つけて学習する習慣の確立に努めましょう。
- 普段から教員同士がお互いの授業を参観し、学び合いましょ。